

谷川岳主脈縦走

【山行日】 2014年9月13～15日

【集合場所】 小山市役所駐車場 6:30

【交通・費用】 車1台、電車、バス 23,000円

【メンバー】 CL 仙石、SL 島田、清水ケ、稲見

9月13日 谷川岳へ

【コースタイム】

小山市役所駐車場 6:30＝佐野藤岡 IC＝月夜野 IC＝

後閑駅前駐車場 8:25—後閑駅 8:38＝水上駅 8:51～9:04

＝ロープウェイ駅 9:25～＝天神平山頂駅 9:55～10:05—熊穴沢避難小屋 10:53～11:02—

肩の小屋 12:20～13:05—オキノの耳 13:30～37—トマの耳—肩の小屋 14:05



2008年会に入会して2年目、西黒尾根からオキノの耳に登った時は、山のことあまり知らずに、皆の後を訓練と思い、水6Lを背負い登った記憶がある。今回は、久しぶりの山小屋泊り、縦走である。リーダーから、荷物の分担を指示され、なるべく荷物を軽くするよう努力した。朝5時予定通り駐車場を後にした。高速道路は、順調に進み、予定通り、月夜野ICで下り、後閑駅前の駐車場に車を止め、JRで水上駅に向かった。ロープウェイ駅行きのバスに乗車。座席に座れないほどの混みあいである。若者が多い。谷川岳に向かうようだ。

今回は、3日間の山行である。中日がきつい。体力温存を考え、天神平から山頂を目指す。観光登山者が多く、登山路は石がごろごろしており、スニーカーの人を見ると心配になる。新潟方面の天候はあまり良くなく、山頂が時々霧の中に隠れる。でも下界までは、視界がきき、楽しく山行を味わった。

熊穴避難所で小休止。行動食をお腹に流し込んだ。緩やかな登りから山頂までは、小規模な岩場があり、きつくはないが、登りが続く。天神ザンゲ岩には、おじさん達がたむろしており、横から岩を眺めた。高度



をかせいで行くと、霧が近づいてくる。明日の登山路は、霧の中で全く見えない。路には、リンドウなどの秋の花々が目を楽しませてくれたが、夏ほどの華やかさはない。



肩の小屋に着いた。風を避け、昼食をとる。受付は、2時からとの事。ザックをデポし山頂に向かう。トマの耳から深い谷を望む。

頭を下げ、オキノの耳に登る。山頂は、満員。写真を撮り、山小屋へ。受付を済ませ、反省会。明日の事を考え、350mlの缶ビール2本で終了する。夕食は、ハンバーグ・サバの煮つけ(冷凍品?)。外は、真白な霧の世界。今夜は、天の川は、期待できそうもない。明日の行程を考え7時には、夢の国へ。

(島田)

9月14日 主稜線を縦走して平標山の家へ

【コースタイム】

肩の小屋 6:10—オジカ沢の頭 7:26—大障子避難小屋 8:30

—大障子の頭 9:10—万太郎山 10:10～20—

毛渡乗越手前の避難小屋 10:58～11:32(昼食)—エビスの大

黒の頭 13:10～15—仙の倉山 14:27～40—

平標山 15:30～40—平標山乃家 16:15



二日目の朝、外へ出ると辺り一面霧で覆われ、小雨も降っていた。予定時間を少し遅れて、肩の小屋を出発する。穏やかな笹の斜面は雨で足場は濡れ、滑りやすくまだまだ岩場の下りに自信のない私にとっては、不安を隠せないスタートとなってしまった。

相変わらず霧は消えず、周囲の山々の展望は開けないまま、オジカ沢ノ頭へと急登がはじまる。山頂手前では鎖がかけられている所もあり、ドキドキハラハラの連続。私の心拍数を高めるばかりだ。

オジカ沢ノ頭から緩やかに笹の尾根を下ると大障子避難小屋が見えてきた。小屋からは大障子ノ頭へと登りがはじまる。最初のピークを越えて登り返すと大障子ノ頭。ここから段差のきつい岩場の下りに入って行く。下りきると万太郎山までは、またまた急な登り(泣)。

いつの間にか、谷川方面の空は霧も消え、かすかに青空も見え始め太陽も顔を出してくれた。360度眺望のきく眺めを楽しみながら、万太郎山へと一步一步登って行く。谷川岳から歩いてきた山並が幾重にも重なって見える景色は、山頂を目指す私に力を与えてくれる。万太郎山頂へ着き、水分補給した後は 痩せ尾根をどこまでも下っていった。標高差400mを降り、下りきってからエビス大黒ノ頭へと300mくらい登り。仙ノ倉山までもかなりきつい登り(泣)。やっとの思いで1,883mエビス大黒ノ頭へ到着だ(嬉)。

お昼休憩でお腹を満たし、暑さも和らいできた私が次に目指すは「仙ノ倉山！！」と元気パワー全開で立ち上がったが、目の前に待っていたのは、またまたかなりきつい登りであった。「一步一步・・・一步一步」と呪文のように繰り返して、登りきると一等三角点と方位盤のある2,026m仙ノ倉山に登頂(嬉)！！

仙ノ倉山からは緩やかな山容の平標山を目指す。この辺りの木々は色づきを見せ、紅葉の美しさにしばし心癒される。花の山として有名なこの山は、この時期になってもトリカブトやリンドウ、アザミ、コケモモなど可憐な草花は色鮮やかに咲き続けている。長く続く木道を下っていくと、赤い屋根の小屋が見えてきた。今晚お世話になる平標山乃家だ。

ここは水場もあり、小屋も綺麗でおまけに手作りの食事もとても美味しい。陽が落ちると部屋にはランプが灯され、なんとも幻想的な私の山小屋デビューとなる。小屋のテラスから今日一日歩いて来た仙ノ倉山、エビス大黒ノ頭の山々を振り返ると雄大な景観に改めて感動を頂き、どうにかここまで縦走出来たことの達成感、私にまた一つ大きな自信を与えてくれた。

まだまだ、未熟な私と共に同行して頂いた仙石さん、島田さん、清水さん ありがとうございます。皆さんがハラハラすることのないようスキルアップ目指し、次へとつなげていきたいと思っています。こうした いくつもの経験から気づきや喜びを感じ、充実に満ちた心が今日の疲れも忘れさせ、また 山に登りたいと思うのかな・・・とひとり納得の二日目であった。



(K I)

9月15日 三国峠から法師温泉に下山

【コースタイム】

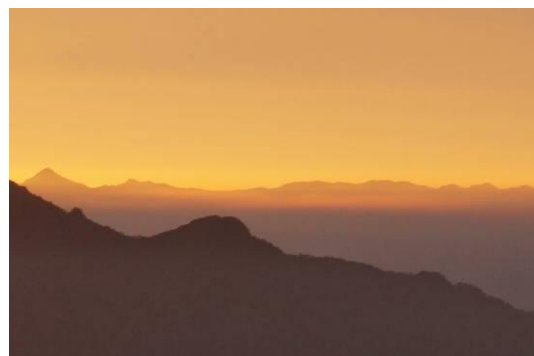
平標山乃家 6:40—大源太山 7:55～8:25—三国山 10:20～10:25

—三国峠 11:09～11:18—上越橋 11:42—

法師温泉 12:43(入浴)～15:40＝猿ヶ京 15:55～16:04＝後閑駅

16:52—駐車場 17:00＝月夜野 IC＝

佐野藤岡 IC＝小山市役所駐車場 19:00



谷川の主稜線、40年ぶりに辿った。昨年は、一人で白毛門から清水峠、谷川岳と馬蹄形を辿った。じっくりと歩けばまだまだ歩ける、そういう自信にもつながった山行であった。

朝一番、東の空が茜色に染まった。そして、何日ぶりかに見るご来光である。仙の倉、エビスの大黒と辿ってきた山々がシルエットに染まる。茜色の中に武尊、日光白根、皇海山そして袈裟丸に連なる山並みが浮かんでいた。南側には浅間、そして富士山も薄らとではあるが確認できた。

今日は、この縦走を完結させる三国峠までの縦走路である。下山と言っても、大源太山、三国山、そして小さなピークの上り下り、決して楽な道ではない。しかし、進むにつれ昨日辿った主稜線が見渡せるようになる。感激に浸りながらの歩みとなる。大源太山は縦走路から少し外れるが、主稜線の絶好の展望台である。



主稜線のスタートである谷川岳が小さく望まれ、そこから辿ってきた縦走路を一つ一つ確認しながら仙の倉、平標へと至る。コーヒーを沸かしゆっくりと休む。ここで主稜線の展望とはお別れだ。

三国山までは樹林の中、小さなアップダウンを繰り返す。3日目の足腰には結構こたえる。三国山に達すると眼下に、三国峠の石鳥居、国道17号線、谷間に法師温泉の屋根も認められる。まだまだ、小さく小さく見える。あそこまで下るのだ。三国山からは木の階段が延々と三国峠まで続く。見えるのだが、なかなか大きくなってこない。ここも、階段を踏み外さ

ぬように一歩一歩である。

三国峠でちょっと休み、さらに20分、やっと三国トンネル上州側入り口上越橋に降り立つ。主脈縦走の完結である。あとは、法師の温泉が待っている。さらに1時間法師沢沿いに下る。ここはヒルが出るそうで、要注意。Sさんと私に各1匹潜入していた。幸いに吸血されることはなかったが。



法師温泉について、温泉に浸る。3日間の汗を流して感慨に浸る。至福のひとつ。ここからはバスを乗り継ぎ後閑駅に戻る。法師温泉発までは、2時間ある。バス停で残り物ではあるが、おいしいオニオンスープを作り、いただく。こんなゆったりとした待ち時間もまた良い。

メンバー4人、3日間よく頑張って歩き通しました。本当にありがとうございました。

(仙石)